

2016年12月31日発売号 掲載

Dr. 週刊新潮

ドクター

2017

良医の視点

透析治療

医療法人社団 嬉泉会

春日部嬉泉病院

春日部嬉泉病院附属クリニック

オンラインHDFなどの最先端の透析機器を整備し 個室のプライベート空間で地域密着の透析医療を提供する

患者さんの自己血管または人工血管を用いた手術でも、某テレビドラマにある「失敗しませんから」という意気込みで日々励んでいます。

野澤 幸成 血管外科医長
のぞわ・ゆきなり

心臓血管外科医の経験を活かしています。外科専門医として、PTAとシャント手術など血管の手術は任せてください。循環器専門医として、心臓・腎臓内科も診察しています。

透析の元祖である嬉泉会が個室透析という新しい扉を開けました。

良医の視点
透析治療

丸山 寿晴 院長
医療法人社団 嬉泉会 副理事長

まるやま・としはる
春日部市医師会理事(防災・学術・福祉・病院)、社会福祉法人嬉泉評議員、医学博士、総合内科専門医、循環器専門医、透析専門医、介護支援専門員、スカイツリーライン腎疾患研究会代表世話人、身体障害者福祉法指定医師(腎臓と心臓)、春日部CKDの会代表世話人

透析治療のバイオニアとして 地域に密着した医療を実現

春日部嬉泉病院は、多数の透析機器を整備した透析治療のバイオニア的存在で、地域に密着した透析医療を実践している。「全自動の透析コンソールも埼玉県下で2番目に導入しています。2014年には個室の透析センターを完備した春日部嬉泉病院附属クリニックを開設し、より質の高い透析医療を提供する体制が整いました」と丸山寿晴院長は話す。

春日部嬉泉病院の特徴は、内科医と外科医がチームを組んで、患者さんに対応していることだ。透析治療の場合、内シャントと呼ばれる動脈と静脈をつなぐ手術を行う。

同院で内シャント造設技術などの手術に携わっているのが、外科専門医で、かつ循環器専

門医でもある野澤幸成血管外科医長で、「内シャント造設術は、自己血管で行うことを基本にしています。動脈と静脈をどこでつなぐかが重要なポイントで、頭の中でシミュレーションしながら手術を行っています。吻合場所の選択を誤ったり、つなぎ方が悪いと、血管がしっかり発達せず感染や合併症の原因となります」と話す。

同院では、2015年6月(2016年5月で内シャント造設術、経皮的血管造影術、血栓除去術、ペースメーカー挿入術、静脈瘤手術などを300症例行っている。

クリニック透析センターで プライベート透析治療を行う

分院ともいえる春日部嬉泉病院附属クリニックについて、丸山院長は「患者さんのプライバシーを大切に、施設全

体がWiFiにも対応しているため、自宅にいるような完全プライベート空間で透析治療を受けながら個人の時間を楽しんでいただくことができます。患者さんのライフスタイルを重視した、前例のない透析治療を実現することができました」と抱負を語る。

クリニック2・5階にある透析センターは、1フロア14床、合計56床の規模で、各フロア中央にナースステーションがあり、それを取り囲むように個室が配置されている。

「ナースステーションからは、全ての個室を見渡すことができます。上部の開いた特殊カーテンを用い、そこから見える表示灯により患者さんの状況が逐次把握でき、プライバシーに配慮しながらも安全第一の透析治療を心がけています」と有馬光子クリニック看護師長はいう。

長瀬ひろみ透析師長も、「寝てよし、仕事をしてもよし、趣味を行ってもよしと、患者さんには自由に過ごしていただいています。透析は一生の

治療になることも少なくない

だ。ご家族のようなお付き合いをしながら、私たちが患者さんを支え続けていくべきだと思います」と言葉を続ける。

最先端機器のメンテナンスや 水質管理を徹底する

同院では、透析治療にいち早くオンラインHDFを導入した。最先端機器のメンテナンスや治療の準備に携わっているのが臨床工学技士(ME)

だ。

矢吹寛美臨床工学技士は、「オンラインHDFは、血液透析に濾過を加えた最新治療法です。濾過透析で、より多くの老廃物を取り除くことができるというのは利点ですが、重要なアルブミンが抜けてしまうことにもつながります。それにより高齢者や栄養状態のよくない人には大きく影響しますから、患者さんそれぞれに合った一番いい透析治療を提供することを目指しています」と話す。

「患者さんにとっていい透析とは、血圧が安定して、かゆみ、いらいら、不眠がない治療です。痛みが少ないのも重要です。透析の針を刺したり抜いたりする時は、感染症の危険もあり、細心な注意を要します。その点、当院の臨床工学技士は熟練のスペシャリストばかりです」と自信をのぞかせる。

「透析治療の場合、水質管理

も大切です」と話すのは黒瀬輝政臨床工学技士主任だ。同院では、水質検査専用の部屋を用意し、エンドトキシン(ET)

や細菌の検査を定期的に行っている。「検査の時は、余分な菌が入らないようにするため、空調もつけません。基準に達しないような水が患者さんの体の中に入ることには決してあってはならないことなので、これからも水質検査を徹底していきます。私たち臨床工学技士は、医師や看護師と一緒に患者

者さんを診ています。患者さんが必ずそこにいるということに常に忘れないよう心がけています」と決意を語る。

医師も看護師も臨床工学技士も、「地域医療に貢献する」「透析治療の患者さんを心からサポートする」という高い志を掲げ、それぞれが豊富な経験とやりがいを持って最先端の透析治療を行う春日部嬉泉病院。透析医療の理想形が、ここに集約されているように感じた。



患者さんを支える有馬看護師長(右)と長瀬透析師長(左)。「個室透析というプライベート空間だからこそできる心のこもった温もりある看護をしています」



矢吹臨床工学技士主任(左)と草間臨床工学技士主任(右)は、患者さんの安全を考慮し、安心して透析治療に臨めるよう最善の心配りをしています」と話す。



「水質検査は2人1組で行います。時間がかかる地道な作業ですが、決して手を抜いてはならない重要な仕事だと思っています」と黒瀬臨床工学技士主任



春日部嬉泉病院附属クリニックは、6階建てで、1階はブナの木で生命と誕生を、2階は桜が咲き蝶が舞う春で人生の成長期を、3階は桜々と輝く太陽の夏で青年期を、4階は紅葉の秋で成人期を、5階は雪の温かさを感ずる冬で円熟期を、そして6階は軽井沢の白糸の滝に囲まれた癒して人生の完成された姿を表現し、院内全体が美術館風にデザインされている

医療法人社団 嬉泉会
春日部嬉泉病院
(春日部きせん病院)

(アクセス) 埼玉県春日部市中央 1-53-16
(TEL) 048-736-0111
<http://www.kasukabe-kisen.jp/>
(診療科目) 人工透析内科、内科、循環器内科、腎臓内科、リウマチ科
(一般病床) 60床
(透析ベッド) 75床 (月・水・金 午前・午後・夜間 / 火・木・土 午前・午後)
(クリニック) 56床 (月・水・金 午前・午後 / 火・木・土 午前)
春日部嬉泉病院附属クリニック
<http://sub.kasukabe-kisen-hp.jp/>

